

新鶴村二〇〇〇年回顧

名誉村民・理学博士

山口弥一郎

新鶴村は明治三十一年（一八九八）新田・鶴野辺の合併村で、成立一〇〇年に当り、お目出度うございます。

計らずも昨年私は名誉村民の称号を戴き、有難うございました。厚く御礼申し上げます。

その理由の一つに『奥州会津新鶴村誌』を刊行したことによるようですが、これは私一人の研究ではなく、多くの郷土研究家の集積によるものです。特に各部落誌・民俗誌などを詳述してあるが、これは町村誌の記述に先鞭をつけることになり、その後は皆、身近な部落誌を多く附けるようになった。

私は新屋敷新田村に生れ育ったが、その頃までは鶴沼川辺には葦谷地や湿地が多く、古くからの村は佐賀瀬川扇状地の上にあった。現在の阿賀川は古くは単に大川と呼んでいたが、会津盆地の西山麓が低く、佐布川辺に流れてきて宮川と合し、新鶴村の東縁を北流している。

それで古い開発は西山麓か、佐賀瀬川扇状地の末端が早かった。会津高田町と会津坂下町の両町に商圈がはさまれているが、会津若松市にも一部古くから固定商圈もあり、時に商圈の分割もされようとしたが、もともと合併された村で、再び分割されないように要心してきた経緯もある。